

【魅力ある食品開発支援事業】

無形資産可視化ツール 記入例について

1. はじめに

魅力ある食品開発支援事業において、令和 6 年度から無形資産可視化ツールを作成することが必要となりました。無形資産可視化ツールは、魅力ある食品開発支援事業に採択された企業様が、実績報告書に添えて提出していただくものです。

申請時は、最低限無形資産可視化ツールの指定箇所のみを記入していただき、提出してください。

本記入例は、無形資産可視化ツールを作成するための参考になるように作成しました。

2. 記入例について

本記入例は下記の状況を想定しています。自社の状況等に沿って記入をお願いします。

■本記入例の想定概要

●想定企業

味噌製造業

●想定企業の現状

主に九州地方で消費される麦味噌の製造販売を行っている。近年では、味噌自体の消費量は減少傾向にあり、ここ 20 年で半減している。

●開発したい技術・製品

味噌の機能性(できれば機能性表示食品の届出)を見出し、新商品の開発を行うことで、これまで味噌に関心のなかった世代や健康に気を使う世代に興味をもってもらえる新商品開発を行うことで、売上げ増を図る。

●どのように開発して製品化するか

- ① 基本的に自社で研究開発するが、開発の一部を専門の機関(大学や工業技術センター等)と共同研究を実施し開発工程の短縮や性能アップを図りたい。
- ② 味噌の機能性について大学と共同研究したい。
- ③ 工技センターの技術指導を受けながら、小ロットで試作を繰り返し、新製品開発につなげたい。

●開発した製品の販路等は

3 年以内の製品化を目標としており、展示会等にも出展したい。

●開発を目指す製品において、魅力ある食品開発支援事業で製品の完成度でどこまでを

目指すか

魅力ある食品開発支援事業の助成金を活用して、大学との共同研究や工業技術センターから技術指導を受けながら試作を行うところを実施する。その後、自社内で検討を繰り返し商品化する。

3. 自社への対応について

本記入例は、あくまでも「机上で想定した企業概要」で、実際の企業例ではありません。開発したい製品や技術については、各社で大きく異なるため、自社の考えに沿った内容に書き換えてください。

また、申請時は、指定箇所のための記入で結構ですが、研究開発の進捗と併せて、無形資産可視化ツールの全体の作成を行っていただき、実績報告書の提出時に添えて提出いただきます。

4. 問い合わせ先

お気軽にお問い合わせください。

(公財) かごしま産業支援センター 産学官連携課 久保、松田 まで

〒890-0065

鹿児島市郡元 1-21-40 鹿児島大学 産学交流プラザ棟 2F

TEL : 099-214-4770 FAX : 099-214-4771

E-Mail : sangaku@kisc.or.jp